
11 いわゆる“波動測定”による 光学活性体 (D-form, L-form) の判別

村上幸雄 (栄養化学研究所)

〔目的〕 生体の健康全体と生体関連物質の生体適応性の評価を行う“波動測定”と呼ばれる方法があり、その科学的な基礎となる理論の詳細はまだ不明な点が多いが、多数の測定実例は、この測定法が信頼するに足るものであることを示している。当研究所における実験でも、本測定法により、普通鶏卵よりも、烏骨鶏卵の評価が高く、烏骨鶏にビタミン B 1 2 含有飼料を与えるとさらに、高値となる。さて各種の異性体现象のうちでも、光学異性体 (optical isomerism) は最も、デリケートな差異にもとづくものである。またその発生は、生命現象に固有のものであるという思想も存在する (L. Pasteur)。本実験はアミノ酸の光学異性体 (D-form, L-form) の判定に波動測定法がどの程度有効であるかを知ることがを目的とする。

〔方法〕 市販の特級試薬として販売されているアミノ酸のそれぞれについて D-型、L-型、DL-型を購入し、波動測定により、判別を行った。使用機種は PIA (=Personal Information Analyzer/名古屋製酪)、測定は山梨浩利、大橋一徳 (名古屋製酪・東京) の両氏に依頼した。

〔成績〕 プロリン、メチオニン、バリン、セリン、グルタミン、スレオニンの L-体、DL-体、D-体の評点は、L > DL > D の順に低下した。

〔結論〕 波動測定によりアミノ酸の光学異性体を判別することができた。他の光学異性体 (糖その他) についても同様な実験を計画中である。今回の実験に協力の労を惜しまなかった山梨浩利、大橋一徳の両氏、ならびに波動関連の資料を恵与された名古屋製酪・波動研究所・角藤所長に深謝する。